



ひめまの

57

宇都宮短期大学附属高等学校生徒会

ひめまつ 目次 (第五十七号)

表紙……村上 真理奈 題字……石川木魚 写真……写真部・編集委員会
グラフ「学園の四季」

論説 小中教員給与国庫負担の是非……………校長 須賀 淳……………1

随想 「スローフード都市宣言」……………副校長 須賀 英之……………5

特集 ……………9

NEW特進コース・本校独自の学習指導 ～三つの柱～
那須大学が新たに！宇短大人間福祉学科に幼児福祉専攻を新設！
普通科応用文理コース一年生（第一期生）が特別大学講座を受講
青空のもと、中高秋季大運動会を実施！！
一致団結して、より積極的な生徒会活動を（新生徒会長に就任して）……………有坂 真奈美……………14
生徒会活動のさらなる発展へ向けて（任期を終えて思うこと）……………手塚 彩由美……………15

〈声〉 須賀学園二〇〇二 ―新世紀をスタートして―……………16

ありがとう
いつまでも変わらないもの
三年二十四組 須田 真由美
二年一組 斎藤 蓉里

*心に強く響くもの（校内読書感想文コンクール入賞作品）……………17

- 【第三学年の部】 校長賞
- 一位 「ひめゆりの塔」を読んで……………二十五組 井上 祐美子
 - 二位 「ホテル帰る」を読んで……………八組 鈴木 朋大
 - 三位 「変身」を読んで……………一組 松本 奈津子
- 【第二学年の部】 校長賞
- 一位 「僕、9歳の大学生」を読んで……………八組 田中 真美子
 - 二位 「十七歳」を読んで……………四組 平山 絵夢
 - 三位 「告知」を読んで……………十組 秋山 友里
- 【第一学年の部】 校長賞
- 一位 「車輪の下」を読んで……………一組 新島 真由子
 - 二位 「人間失格」を読んで……………十一組 菅野 秀一
 - 三位 「キング牧師」を読んで……………七組 多田 有香梨

*第十一回とちぎ教育の日提言コンクール入賞作品……………31

優秀賞 「法曹界への夢と私」
三年一組 根本 宜之

□作品集

詩

俳句

友へ 三年二組 渡辺 智佳

一年 十五句

★あたらんだむ

世界の架け橋に―宇都宮市主催NZ海外派遣事業に参加して―
一年間の反省と二年生になる抱負
二年間の反省と三年生になる抱負

二年五組 田崎 正倫
二年二十五組 直井 まりな
三年十九組 木村 聖子

♪関西・大笹・那須の旅

『修学旅行の思い出』

修学旅行で学んだこと
修学旅行を振り返って
高校生活一番の思い出
一日旅行―那須りんどう湖・ファミリー牧場へ―
大笹牧場は霧の中？

三年四組 上原 加南
三年五組 篠原 理恵
三年二十五組 井上 祐美子
三年二十一組 倉井 ゆかり
一年五組 瀧田 裕隆
二年五組 石塚 麻里子

招待席

クサンチツベ(ドイツの低気圧)
須賀房江先生、とちぎ子ども学会での講演録から

寺内 伸弥

□卒業生懇談会 ～在校生へのメッセージ～

◇わがホームルーム紹介

三年・二年・一年

◆委員会・クラブ紹介

体育・図書・美化・茶道・華道・インターアクト・JRC・服飾手芸・オーケストラ・プラスバンド・パソコン・演劇・弓道・女子バレー
サッカー・新体操・剣道・男子バレー・男子ソフトテニス・女子ソフトテニス・卓球・男子バスケット・女子バスケット

★学園告知板

洋食の新井好壽先生が厚生労働大臣表彰を受章

本校が陸上自衛隊東部方面から表彰

文化庁主催オペラ「夕鶴」～150人の観客を魅了～

第二回高大連携講座 講師先生へのインタビュー記事および講演内容の概要

青空のもと、スポーツフェスティバル!!

青空のもと、テニスボールを追って……宇短附杯ソフトテニス大会開催

卒業生のみなさんから熱いメッセージ ～平成十四年度大学合格者体験発表会を開催～

医歯薬特進コース一年(第二期生)が卒業生による体験講話を開催

医歯薬特進コース二年生(第一期生) 独協医科大学オープンキャンパスへ

インターハイに出場!! 男子ソフトテニス部・弓道部

宇短大人間福祉学科で第二回オープンキャンパス実施～百五十名を越す参加者で大盛況～

華やかに、感動を……「フェスタ2002」を開催

情報商業科が校内研究発表会を開催

タイから帰国、吉村翔太郎君 ～国際ロータリー第250地区交換留学生として～

NZマヌカウ市へ、派遣中高校生

セヴリース・クロティルドさんフランスから二度目の来校

宇都宮短期大学附属中学・高等学校

校歌

作詞 菅谷 徳次郎
作曲 野原 幸夫

Musical score for the school song with lyrics in Japanese. The lyrics are: ふに たわ のに たし 一 かけ ねれ をる はひ め かま につ あお ま二 ぎつ
まか なわ びの のぬ みみ ちさ おじ はま ちさよ きよ くろ あず れよ とと
かか たた みに ち二 かわ い て い そ し し み は げ む
おま しな えび のに 二 わわ (こ) そ げ に に とめ うで け け れ
あ わ れれ とめ うで とた こ 一 のの まま なな びび やや

校歌

一 二 荒の高嶺を 遙かに仰ぎ
学びの道筋 まさしくあれと
かたみに誓いて いそしみ励む
教えの庭こそ げに尊けれ
あわれ尊 この学びや

二 庭面に茂れる 姫松小松
変わらぬ操は 千代万代と
かたみに祝いて いそしみ励む
学びの庭こそ げに芽出度けれ
あわれ芽出度 この学びや



附属中学生★那須大留学生との交流会を開く
投書

教育実習生、母校の教壇に

英語 白百合女子大学 福田 朝子
数学 会津大学 西沢 容子
音楽 宇都宮短期大学 恒吉 愛
公民 明治大学 渡部 華世
音楽 武蔵野音楽大学 宇井加代子

附属中コーナー

この一年間のおもな活躍 各種コンクール入賞・書道展作品
クラス紹介・行事紹介・少年の主張河宇地区大会優秀賞作品
栃木県「緑づくり夢作文」コンクール優秀賞作品・校内読書感想文コンクール
二年一組短歌選・俳句選・一年一組現代詩選・各種「善行賞」を受賞
写真で見る中学校生活

那須大学・宇短大(人間福祉学科)コーナー

平成十四年度生徒会報告

◇就職状況 202
◇職員住所録 207
◇編集後記 214

編集委員長 木村 晋介 214

学園の四季



▶ 昨年3月8日(金)に栃木県総合文化センターメイプルホールで行われた特別定期演奏会でごあいさつする須賀 淳校長先生。(指揮者は、田淵 進宇都宮短期大学副学長先生)



▲ 4月8日(月)に須賀栄子記念講堂大ホールで行われた附属中の入学式で、誓いの言葉をのべる新入生。



▲ (右) アルトの城守 香さん。(音楽科卒業生)
(左) ソプラノの大貫裕子さん。(音楽科卒業生)
混声四部からなる600名の大合唱団をリードくださいました。



▲ 11月14日(木)に須賀栄子記念講堂大ホールで行われたアコーディオンコンサートで演奏される石川浩子さん。(音楽科卒業生)



▲ 11月2日(土)に栃木県マロニエプラザで行われた第4回栃木県産業教育フェアで、自作のドレスを披露する生活教養科の皆さん。

一人は
一校を
代表
する



あおぞらのもと 秋季大運動会!

▶ 今大会のクライマックス。▼
高校1・2年男子生徒、総勢840名
による集団演技「えささっさ」から。
いざ出陣!



クラスで旗を作って応援合戦。(生活教養科1の18の皆さん)▶



▲ 今大会で総合優勝をはたした普通科進学コース(男子の部、女子の部とも)の代表生徒が、校長先生から優勝カップを授与されました。



すっかり秋も深まった11月9日(土)、3年に1度行われる中学・高校合同の秋季大運動会が、栃木県総合運動公園の補助競技場で開催されました。当日は、初冬の訪れを思わせるやや肌寒い朝を迎えましたが、3000人を超える生徒の熱気で、平素の練習の成果が十分に発揮された実りあるスポーツの祭典となりました。(特集記事もぜひお読み下さい。)



▲ 開会式で須賀 淳校長先生に全校生徒を代表して、力強い選手宣誓をする体育委員長。右端は酒巻幸夫・高校PTA会長。



▲ 高校1年女子の棒運びリレー「台風目」から。みごと第1位の勝利のスマイル。



▲ 高校2年女子生徒全員による集団演技「颯琉の舞」から。おそろいの舞扇で「波」を表現!

▼ 高校3年男子の障害物リレー「のりのりでGOAL」から。畳の上でバランスをとりながら、目指せダンクシュート!



◀ 高校1年女子生徒全員による集団演技「青春の躍進」から。白布を使った華麗な演技が注目を浴びていました。

論説

小中教員給与と国庫負担の是非

校長 須賀 淳 あつし



を大きく揺るがせた。

日本の公立の小中学校の先生方は、給料日には国立学校の教員の給与の額に準じた給料が銀行口座にきちんと振り込まれ、安心して児童生徒の教育に専念していただけるのであるが、昭和の初め、世

小泉純一郎首相の諮問機関である地方分権改革推進会議から、昨年七月「事務・事業の在り方に関する中間報告」が出された。その中で「国の関与の在り方の見直しを踏まえて、義務教育費国庫負担金について、一般財源化（交付金化）も念頭に置きつつ制度の在り方を検討する」ことが提言され、文部科学省や教員団体を



▲7月22日(月)～7月25日(木)にかけて韓国研修旅行に出発するごあいさつをするインターアクトクラブの皆さん。



▲7月13日(土)に行われたスポーツフェスティバルから。(男子バスケ優勝は3の13・14)

生徒会
行事あれこれ



▲フェスタ2002から。音楽科3年生を中心とするオペレッタ、今回はミュージカル「サウンド・オブ・ミュージック」。



▲フェスタ2002から。メインテーマは「時代」。10月24日(木)に記念講堂大ホールで行われた生活教養科のファッションショー。

生徒会役員

 副会長 平井 恵理	 副会長 石田 恵	 会長 有坂真奈美
 庶務 佐久間 絵美	 庶務 佐伯 剛史	 会計 柿沼 未輝
 議長団 阿部 晴子	 議長団 中島 祐実	 議長団 羽鳥 可奈子
		 議長団 藤本 健太郎

界大恐慌のころは、市町村財政が窮乏して、小学校（まだ六三制の中学校はない。）の先生方の給料の不払い、遅払いが全国各地に続出し、大きな社会問題となった。

そこで、文部省（当時）は小学校の先生の給与を市町村の負担から、財政規模の大きな都道府県の負担に移し、その二分の一を国が負担することによって、小学校の先生方に安定的かつ格差のない給与の支払いができるようにしたのである。

地方財政平衡交付金に吸収

ところが終戦後、占領軍は日本経済安定の大手術として、昭和二十五年（一九五〇）にシャープ勧告という行財政の大改革を行い、地方財政平衡交付金（現在の地方交付税交付金）制度を創設した。そして文部省が所管していた小中学校の教員給与費の二分の一国庫負担金は自治庁（当時）が所管する平衡交付金に吸収されることとなった。交付金というヒモ付きでない一般財源では、教員給与費が土木費などに回されてしまい、教員定数や教員給与が都道府県によって大きな格差が生じるおそれが出たのである。

このため、文部省は地方財政平衡交付金から小中学校の教員給与費の分を外して、ヒモ付きの義務

教育費国庫負担金として文部省に取り戻すことを図つたのである。教員給与の事務を取り扱う文部省初等中等教育局の財務課に新採として配属された私は、内藤登三郎課長（のちの参議院議員、元文相）のもとで自治庁の財政課へ日参することとなった。

自治庁の奥野誠亮財政課長（現衆議院議員、元文相、法相）は名にし負う理論家である。お役所の縄張り争いは権限とカネであるから、平衡交付金の大きな部分を占める教員給与費をめぐって激しい攻防が展開された。こうして昭和二十七年（一九五二）、文教族議員の奮闘もあって教員給与費の二分の一国庫負担制度が復活して、現在に及んでいる。

小泉改革で再び一般財源化論

このような経緯がある教員給与制度であるから、五十年前のシャープ勧告の時代の交付金に戻せという地方分権改革推進会議の提言は、義務教育の根幹にかかわるものだけに文部科学省にとっては受け入れがたいものであろう。

しかし、小泉首相は閣僚懇談会において、構造改革の推進に向けた具体策を提出するよう指示した。そして遠山敦子文科相に対しては義務教育費国庫負担制度の見直しを課題として与えた。

私は、現行どおり、安定した国庫負担制度の存続を願うものではあるが、時代は変わったのであるから、地方の自主性に任せようという推進会議の提言も案外面白いかもしれない。

一方、現在、私立学校の経営に携わっている身としては、少子化の時代に入学者の確保に努力して、自分の給料は自分で稼いでこななければならない私学の苦労も公立学校の先生方に分かってもらいたいと、チョッピリ思わないでもない。

(本稿は、筆者が下野新聞客員論説委員として、論説欄「針路」に寄稿したものに補筆したものである。)



● 校長略歴

昭和二十四年東京大学を卒業。文部省に勤務。文部大臣秘書官、初等中等教育局教科書課長、同初等教育課長などを歴任し、昭和四十三年須賀学園に戻る。平成十一年四月～十三年三月那須大学長。現在、須賀学園理事長、宇都宮短期大学長、同附属中学・高等学校校長、日本私立短期大学協会常任理事、栃木県私立中学高等学校連合会長などをつとめる。

随想

『スローフード都市宣言』

副校長 須賀 英之



昨夏、ある新聞の読者アンケート「行ってみたいショッピングセンター」の第一位に「アクアシティお台場」が選ばれました。この施設は、都心一極集中を是正するための東京臨海副都心計画の一環として、私が銀行勤務時代にかかわったもので、その記事を見て、とてもうれしく思いました。なぜならば、バブル経済の崩壊とその後の消費不況から、途中で何度も断念せざるを得ない状況に遭遇したことがあり、構想から開業(2000年)までに約十五年もかかった思い出深いプロジェクトだったからです。

海に面したバステルカラーの立体的な建物の基本コンセプトは、1960年春、私たち日本側の三菱地所、竹中工務店、泉真也氏(現在、愛知万博の総合プロデューサー)などのスタッフと、米国の商業

デザイナー、ジョン・ジャーディ氏による熱い議論から生まれました。そこで目指したものは、地中海の温暖な気候と歴史に育まれた落ち着いた港町、北イタリアのトスカナ地方のイメージでした。トスカナといえば中世にルネッサンスの中心として開花したフィレンツェが有名ですが、ピサ、シエナなど個性豊かな都市もあり、芸術、文化、料理、ファッションはもちろん、自然、産業等にも恵まれ、現在でも世界中から多くの観光客がおとずれています。

当時は、バブル経済の最盛期でモノがあふれていた時代でしたが、私たちは、21世紀にむけて成熟化社会が進行する中、これからは「弱肉強食の競争原理や経済合理性の追求」から「心の豊かさや自然との共生」が重要な価値基準になると感じ、「米国の大量生産的な大ショッピングセンターのコピー」ではなく、「地域の優れた伝統工芸品や新鮮な食材を生かしたトラットリア（大衆食堂）のある市場」を作ろうとの思いをいただきました。当初は草ぼうぼうの埋立地でしたが、その後、橋や鉄道が開通し、新しい都市空間が生まれ、今たくさんの人であふれているのを見ると、熱いものがこみ上げてきます。

さて、「アクアシティお台場」の構想期と同じころ、「スローフード」という考え方がこの北イタリアから興り、現在、世界的な運動となっていることを最近知り、不思議な縁を感じています。「スローフード」運動は、ローマのスペイン広場へのマクドナルド出店に反対する行動がそもそのきっかけで始まったそうですが、たんなるファスト・フード排斥を目指すものではありません。その目的は、
・消えていく恐れのある伝統的な食材や郷土料理、質のよい食品やお酒を守ること
・質のよい食材を提供してくれる小生産者を守ること

・子供たちを含めた消費者全体に、味の教育を進めていくこと
というものです。運動の中心になっているNPO（特定非営利法人）のスローフード協会によれば、今や世界に七万人以上の会員がいるとのこと。

子供のアトピーや成人病の動脈硬化・骨粗鬆症に現代人の食生活が大きな影響を及ぼしていることは容易に想像できます。また、家族がそろってゆったりとした気分、会話をたのしみながらゆっくり食事をとることができれば、「荒れる子供」が社会問題化することも少ないのでは、と思うのは私だけではないでしょう。

『スローフードな人生』（新潮社刊）の著者の島村菜津さんは、

「スローフードとは、普段、漠然と口に運んでいるものを、ここいらで一度じっくりみつめてはどうだろうか、という提案である。そうして、この毎日、胃の腑におさめている滋養と活力のもとを通じて、自分と身のまわりの人間や、自分と自然の関係を問い直そうではないか、という人生哲学である」とスローライフの勧めを説いています。

また、本校調理科でご指導いただいている音羽和紀先生（オーベルジュ「オーナーシェフ」）は十年ほど前から「親と子の料理教室」を開催されていますが、

「そこで活用したいのが、地元で新鮮な食材です。採れたての野菜などは香りや風味が豊かです。まずそういう素朴な味を五感で感じてほしい。できれば、郷土料理などを通して料理の素材のことから自然の環境への配慮、他の地域や国との食文化の違いや習慣など、子供たちの興味が広がっていくよ

うに望んでいます。」(柴田書店刊『子どもに作ってあげたい料理』と、まさにスローフードの精神と通じる教育を永年実践されています。

私たちの郷土、北関東には野菜や果物など新鮮な食材、肉や卵などおいしいものがたくさんあり、それぞれを旬の時期に安く手に入れることができます。また、優れた料理人や酒・味噌などの伝統ある老舗にも恵まれています。私は、こうした資源をもう一度見直して地域固有の食文化を振興することにより、中心市街地に地域の人々が集い、交流し、観光客も立ち寄ってくれる、そのような魅力あるまちづくりを、今度は地元でぜひ実現させたいものだと思います。

そのためには、生徒の皆さんには、季節の移り変わりや豊かな自然の恵み、そして動植物の営みなどに感動できる感性を研ぎ澄まし、毎日の食生活を大切にして、健全な精神とからだをはぐくんではしいと心から願っています。

● 副校長略歴

昭和五十二年東京大学を卒業、日本興業銀行に勤務。人事部副調査役、産業調査部主任部員、本店営業部・業務部副部長などを歴任し、平成十二年須賀学園に戻る。現在、須賀学園副理事長、那須大学副学長、宇都宮短期大学学長代理、同附属中学・高等学校副校長・栃木県私学審議会委員などをつとめる。



NEW!

特進コース

難関大学への現役合格をめざし、より効率的かつ実践的な取り組みをできるだけ早い段階から始めるため、平成十五年四月から普通科・特進コースが、それぞれの目的別に細分化されることになりました。

まず、医歯薬系を目指す「医歯薬特進」、そして新設の、最難関の国公立大学に目標をしばった「国公立特進」(文系・理系)と幅広いニーズに対応する



▲進学相談室の赤本で、目指す大学の過去問をチェック。

「スーパー特進」(文系・理系)の三つです。いずれも、自分の進路に合わせて選択することができます。

(以下、それぞれの特徴を簡単に紹介させていただきます。)

医歯薬特進

一昨年の四月に新設され、三年目を迎えることとなる「医歯薬特進」ですが、現在の「一、二年生は、国公立・私立大学の医学・歯学・薬学・獣医学関係各学部への進学を目標に全力で頑張っています。この高い目標を達成させるために、最も効率のよい、受験に直結した学習指導の一環として、一年次から毎日の授業の中に「大学入試センター試験対策」が盛り込まれているほか、数学、理科等の理数系授業時数がより多く設定されているのが特徴です。実践的かつ効率的な受験指導に、現役の医学関係者からのアドバイスを加えた

「タテのネットワーク」。そして、将来の進路が明確に定まった友人通しの励みあいの中で、豊かな人間教育と情操教育を志向する「ヨコのネットワーク」。これら二つの座標軸をもとに、一人一人の夢の実現を目指します。

国公立特進

入学当初から、最難関の国公立大学への現役合格を目指させます。県内私立高校の中で、最多の国公立大学合格者数を誇る本校が、その実績をさらに充実・発展させるため、特に学力差が生じやすい数学と英語の二科目において、「T・T(ティーム・ティーチング)授業」を導入、確実にレベルアップをはかります。さらに三年次には、受験演習の時間を大幅に設定し、幅広い基礎学力の育成と高い応用力を身に付けさせます。全国的に志願者が増加し、難化が著しいうえ、平成十六年度入試から受験科目が原則「5教科7科目」へ増加される予定の大学入試センター試験にも着実に対応していきます。

スーパー特進

従来の特進コースをまったく新しい内容に組みかえて、難関の国公立大学および有名私立大学に挑戦していただくための新たなステージです。この「スーパー特進」は、中学三年生の時点ではまだはっきりとした将来の進路が定まっていない中学生の皆さんに、安心して受験していただけることが最も大きな特徴です。高校一年次では、主要教科を中心に習熟度別学習を行い、授業の深い理解とレベルアップをはかるとともに、進路研究を充分に行います。そして二年次以降、文系・理系の幅広い分野から各自が目指すハイレベル大学にチャレンジしていただけます。



那須大学が新たに!



▲須賀学園100周年記念モニュメント前でポーズをとる編集委員長

須賀学園創立百周年を記念して、一九九九年(平成十二年)四月に開学したわが国で唯一の都市経済学部を有する那須大学も、今年で四年目を迎え、既に多くの第一期生(四年生)が一般企業への内定を決めることができました。平成十五年度からは、新たに「セメスター制」が採用され、一年の半分を一学期(一セメスター)とし、前期・後期それぞれのセメスターごとに各科目の単位が取得できるようになります。

本校独自の学習指導

三つの柱

本校では、「学力重視」の流れの中で、独自の学習システムによるサポート体制を完備し、生徒の能力・個性に適應した学力向上策がはかられています。

1 充実した教科指導(実質週六日制)

週三回七時間授業を実施し、週三十四時間(総合的な学習)の時間を含む)の授業時間を確保。土曜日は、「学力強化授業」や「基礎学力補習講座」「センター対策」等の各種補習授業やサテライト授業、「総合的な学習」などにあてられます。

2 個性を伸ばす多様なプログラム

多様化する進路に対応したコース設定と、むだのない特色あるカリキュラムが特徴です。また、土曜日は、「自学自習」の場として学校を開放。放課後

また、時代の変化や社会のニーズに即応した新しいカリキュラムに再編成され、都市の「住」、「健康」、「交通」、「環境」、「コミュニティ」などを学び二十一世紀の「まちづくりのリーダー」を育成する都市環境デザインコースと、都市の「仕事」、「企業」、「情報」、「経営」、「国際経済」などを学び二十一世紀の「ビジネスのリーダー」を育成する「都市情報ビジネスコース」の二コース制が導入されます。さらに、大学入試センター試験を利用した入試が二回実施されることに伴い、那須大学でセンター試験を受験することが可能になりました。

宇短大人間福祉学科に 幼児福祉専攻を新設!

宇都宮短期大学に二〇〇一年(平成十三年)四月に新設された人間福祉学科には、これまで社会福祉専攻と介護福祉専攻とがありましたが、この四月に新たに幼児福祉専攻が新設されることになりました。

3 チャレンジする進学指導

や休日には、正課以外に関する徹底した個別指導も行われています。

最新の入試情報を迅速かつ正確に伝え、それを活用するためにコンピュータ・リテラシー教育に力を入れていきます。大学合格体験発表会や個別相談・保護者面談会等を通して、きめこまやかな進学指導を実践。高校と大学・短大が連携したさまざまな特別講座も開設しています。



▲図書館のパソコンを使って大学進学情報をゲット!

募集定員は五十名で、国家資格である保育士と幼稚園教諭二種免許の資格が卒業と同時に取得できますが、さらに、幼児福祉専攻卒業後に必要な単位を取得すれば、社会福祉士への道も可能になります。



▲8月20日(火)に行われた第2回目のオープンキャンパスで。

夏休み中の昨年八月二十日(火)に行われた第二回目のオープンキャンパスには、県内外から百五十名を超す参加者が訪れ、「福祉」と「資格」の時代に専門職を目指す高校生のみならずの真剣な熱意を感じることができました。

普通科応用文理コース二年生(第二期生)が 特別大学講座を受講

普通科応用文理コースは、専門性の高い学部を持つ大学への進学を第一目標とする生徒の希望に幅広く対応していくため、昨年の四月に新設されました。一年次では基礎的な学習を履修することにより、自らの適性と能力を見極め、二年次からは希望する専門分野に基づく選択授業に臨みます。これは、他校では例を見ない画期的なカリキュラムであり、二年次からの選択授業が多いのも、本校独自の試みです。

九月十四日(土)に普通科応用文理コース第一期生の一年生百六十名が、七月二十七日(土)に行われました第一回目の宇都宮短期大学オープンキャンパス時にひきつづき、第二回目の特別大学講座を受講しました。

これは、高校生としての早い時期から大学進学の自覚を促すとともに、将来の進路選択を考えるよい機会とする事、また、二年次より情報経済社会

福祉・看護医療・英語進学・理工一般の進路別選択授業を受ける準備の一環とすること、大きな目的とするもので、今回は、八時四十五分から記念講堂大ホールで三つの講座を聴講しました。

開講に先立ちまして、まず、須賀英之・副校長先生から、今講座開講の趣旨および日程のご説明、ならびに講師先生のご紹介をいただいた後、さっそく第一講座。

講師の先生は、那須大学都市経済学部講師・赤澤とし子先生。演題は、「大学で何を学ぶか：心構えと大学生活」と題してのご講義でした。

続いて第二講座は、同じく那須大学都市経済学部 助教授・石塚倫子先生の「都市と文化(日本と欧州の比較)」に関するご講義。

最後に第三講座は、LHRを兼ねた「大学進学について」と題しての進学指導。

参加した生徒の一人、一年十三組の小川大地君(宇都宮市立一条中学校・

出身)は、「特に、大学進学に向けた準備段階と実際の大学生活について赤澤先生が最後に述べられた、①夢と希望 ②計画と準備 ③タイミング ④実行力の4つの点が、重要だと思った。将来は、ぜひ、医療福祉の現場で働きたい」と感想を述べていました。(生徒それぞれにとって、将来の進路策定のための実り多い講演会になったようです。)

青空のもと、 中高秋季大運動会を実施!!

すっかり秋も深まった十一月九日(土)、三年に一度行われる中学・高校合同の秋季大運動会が、多くの保護者の皆様のご来場をいただき、栃木県総合運動公園の補助競技場で開催されました。当日は、初冬の訪れを思わせるやや肌寒い朝を迎えましたが、三〇〇〇人を超える生徒の熱気で、平素の練習の成果が充分に発揮された実りあるスポーツの祭典となりました。

「颯流の舞」と中学紅白対抗リレー! 大きな声援と喝采が送られていました。

ブラスバンドの生演奏を聴きながらの昼食タイムをはさんで、午後の部は、高校の部活対抗リレー(文化部・運動部)でスタート。文化部のユニークなコスチュームと各運動部ユニフォームでの熱演?に、おおいに会場も盛り上がりました。

高校一年女子全員による、白布を使った集団演技「青春の躍進」、高二女子のムカデ競争「波乱万丈」、高三男子の障害リレー「のりりりGOAL」、中学生全員によるボール運びリレー「マスターボール」、高校生有志による中距離走(男子一五〇〇m、女子八〇〇m)、中学生・職員全員参加の玉入れ「百発百中」と続きました。

そして、この大運動会最大の華? 前評判の最も高い、躍動する青春! 高校一・二年男子総勢八四〇名による集団演技「えっさっさ」。わずか十分足らずの中に凝縮された一糸乱れぬ大和魂に、スタンド席からは大きな拍手と

歓声が沸き起こっていました。この感動覚めやらぬまま、高校の各科対抗リレーでクライマックス。今大会最後のレースに盛んな声援が送られました。そして、演技種目の最後が、「学園音頭」。

閉会式は、まず成績発表。
今大会の優勝は、男子の部 総合得点二八七点を獲得した普通科進学コース、準優勝が総合得点二六一点の普通科特進コースでした。
女子の部は、優勝が三六九点の普通科進学コース、準優勝が三四七点の音楽科。

中学校の優勝は五〇四点の紅組、準優勝が四六二点の白組でした。
おめでとうございます。

賞杯授与の後、校長先生からご挨拶をいただいて校歌斉唱、中学PTA会長の音頭で万歳三唱、生徒会副会長の閉会の挨拶ですべて終了しました。
(中高校生とも、思い出に残る晩秋の一日になりました。)

午前九時、トランペットの高らかな開式通告ファンファーレで開会式がスタート。高校生生徒会議長団の掲げる校旗と生徒会役員が入場の後、大ブラスバンド、国旗の先導で、普通科特進コース三年一組を先頭に高校七十五クラス、続いて中学校六クラスが入場行進をしました。参加者全員がフィールドに集合したところで、高校生生徒会長から開会宣言! 校長先生と高校PTA会長からご挨拶をいただいた後、体育委員長の生徒代表宣誓があり、全員で「若い力」の合唱、閉式ファンファーレで、いざ演技開始となりました。

午前の部は、中高校生全員による自校体操、その後各学年代表選手による短距離競争(中高全)、高二男子の障害物競走「勇者の挑戦」、高一男子の騎馬レース「戦国騎馬隊」、ご来賓と同窓生の皆様に参加された借物競争「ちよつと拝借」、高三女子の3人4脚リレー「前途多難」、高一女子の棒運びリレー「台風の日」と続きました。

前半のクライマックスが、高校二年女子全員による舞扇を使った集団演技

前回よりも成長したプレーをしたいです。団体は男女共ベスト8に入るようがんばります。

〔女子卓球部長 八嶽てるみ〕

男子バスケット部

私達男子バスケットボール部は、三年生が四名、二年生が十名、一年生が十四名の計二十八名で、日々の練習に取り組んでいます。

夏からは、二年生を中心として活動しています。最初は、三年生の抜けた穴をうめきれず、不安定なチームでしたが、新人大会を終え、キャプテン・船橋を中心として昨年とはまた違ったチームが出来てきました。

ここで、今年度の試合結果を載せておいたので、御覧下さい。

〈県新人大会〉

- 一回戦 宇短附127―47黒羽
 - 二回戦 宇短附100―52佐野日大
 - 三回戦 宇短附81―65宇都宮工業
 - 四回戦 宇短附80―77作新学院
- 決勝リーグ
宇短附83―70宇都宮学園

宇短附90―88宇都宮高校
宇短附81―118鹿沼東

〈関東新人大会〉

一回戦 宇短附68―108東京世田谷学園

〔インターハイ県予選大会〕

一回戦 宇短附119―74白鷗足利

二回戦 宇短附69―99作新学院

〔ウインターカップ県予選大会〕

一回戦 宇短附87―84宇都宮高校

二回戦 宇短附121―107栃木工業

準決勝 宇短附84―123鹿沼東

三位決定戦

宇短附114―85宇都宮学園

そして今年度は、関東大会への出場を果たしました。この結果に満足せず、来年度は更に上位を目指します。

〔部長 船橋 祐二郎〕

女子バスケット部

一試合でも多く、いい内容のゲームをするというのを目標に、私達女子バスケットボール部は、毎日練習を積んでいます。

三年生がいた頃は、スピードのあるチームで、先輩方はベスト4という実

績を残してくれました。でも、今そのバトンがプレッシャーに感じます。いかにスピードを出し、そして高さのない部分をカバーできるプレーをするか。私達自身が解決しなければならぬ問題です。

また、「団体競技の難しさ」、部員全員が同じ方向を向いて勝つための「チームワーク」、という大きな課題もあります。

壁にぶち当たって辛くなることもありますが、藤橋先生、諏訪先生、小林先生の熱心なご指導のもと、二年生九人、一年生七人、そしてサポートしてくれるマネージャー三人で、「関東大会出場」という目標に向かって心を合わせて、今日も体育館で汗を流しています。

〔部長 江連 安奈〕



学園告知板

洋食の新井好壽先生が 厚生労働大臣表彰を受章!!



このたび、本校講師の新井好壽先生〔洋食〕が、平成十四年度調理師関係功労者として厚生労働大臣表彰を受章されました。栃木県からは、〔財〕栃木県調理師会会長の大塚一好先生とともに二人、全国でもわずかに五十名の受章です。誠におめでとうございます。心よりお慶び申し上げます。

厚生労働大臣表彰式典は、十二月二日〔月〕午前十一時から厚生労働省二階講堂にて、また、同日十二時三十分からは、日比谷公園隣の日比谷松本楼にて調理師関係四団体の共催による受章披露祝賀会が行われました。

〔新井先生に受章後の感想をお聞きしました。〕

●長年この道一筋に精進してきたことに対する表彰だというが、本来なら県の中華料理組合長クラスの方がいただいで当然のものであり、大変ありがたいと思っている。

●後進を育成する意味で本校の調理科生徒に望みたいことは、「調理の基本」を第一に重視すること。若いうちには目先のことしか考えないものだが、やがて自分が独立して人を使う立場になったとき、最も重要視されることが「調理の型」であることを、

今から認識して技術と理論の習得に励んでほしい。

〔今回の受章を機に、ますますのご活躍をお祈り申し上げます。〕

陸上自衛隊東部方面から表彰



▲陸上自衛隊東部方面総監より感謝状を授与される須賀英之・副校長先生。

長年にわたる本校の自衛隊への協力が評価され、過日本校が、陸上自衛隊東部方面総監から感謝状を授与されました。

昨年十二月七日(土)に行われた表彰式には、学校を代表して、須賀英之・副校長先生が出席されました。

特に、本校に調理科が新設された昭和四十五年四月にスタートした自衛隊での「集団調理実習」は、他校に類を見ない本校独自の実習授業であり、調理科二年の男子生徒が集団給食の職場体験学習(インターンシップ)の一環として、毎食約一千名分の自衛隊員の食事を作るものです。

毎年夏休み中に、三泊四日の日程で雀宮にある陸上自衛隊宇都宮駐屯地で実施されるこの実習では、調理技術の体得のほかに、集団生活の中で規律ある生活習慣を身に付けさせることも大きな狙いとしています。

また、自衛官になり、第一線で活躍している卒業生も大勢います。

文化庁主催オペラ「夕鶴」 「50人の観客を魅了!」

文化庁主催の「本物の舞台芸術体験事業」として全国五ヶ所で行われたオペラ鑑賞会が、二月七日(金)午後二時から栃木県総合文化センターメインホールを会場に開催されました。栃木県からは唯一本校だけの招待でしたが、この貴重な機会を「総合的な学習」の一環として、本格的なオペラのすばらしさを十分に味わわせていただきました。

演目は、新国立劇場開場記念オペラとしてすでに文化庁より上演された團伊玖磨作曲、木下順一・台本の「夕鶴」全二幕(財団法人日本オペラ振興会・日本オペラ協会公演)です。

そして、悲劇のヒロイン「つう」役には、本校音楽科の卒業生で、ソプラノ歌手として各方面で大活躍中の大貫裕子さん(鹿沼市出身)が出演! オークストラ担当は、東京ニューフィルハーモニック管弦楽団、また児童合唱団として、この公演のために新たに編



▶主役の「つう」を熱演する大貫裕子さん。「与ひょう」への最後の別れを告げるアリアから。

成されたオペラ「夕鶴」宇都宮公演児童合唱団の皆さんが出演されました。本校の中高生一、三五十名は、民話「鶴の恩返し」に秘められた、「本当の人間らしさ」や「まごころ」を求め苦悩する人々を描いた情緒あふれる舞台に、深く感動していました。

第三回・高天連携講座

講師先生へのインタビュー記事

および講演内容の概要



1・那須大学教授 福岡正夫先生へインタビュー

日時 六月二十二日(土)

午前十時から

場所 東棟二階 理事長室にて

○本校高校生を前にして初めての講演会でしたが、率直なご印象は? 普通講演会といえますと、後部座席のほうがややざわつくということも否めませんが、本校の高校生は誠に態度がまじめで、良い聴講姿勢であつたようです。

○高校生に薦めたい書物があれば? まことにホットな社会性の高い書物として、文藝春秋社・文春文庫か

ら出ている猪瀬直樹・著「日本国の研究」同「続・日本国の研究」をお薦めしたい。

これは、本日の各紙にも第一面で掲載されておりますとおり、小泉内閣がおしすすめる特殊法人民営化という一大政府改革案に関する書物にほかなりません。つまり、著者の猪瀬氏は自民党道路族に大反対の急先鋒であつたわけですが、一転して首相が推進委員会のメンバーに起用されたわけで、今後の展開を国民として注視してゆきたい、という観点からの推薦です。

2・講演会のあらまし

日時 六月二十二日(土)

午前八時三十分から

場所 須賀栄子記念講堂大ホール

演題 「大学で何を学ぶか

社会に求められる人間像」

○大学への進路決定の第一の要諦は、自分自身の強烈な目的意識であるう。

アメリカの小説家ステイブ・キングが「アトランティスの心」の中で述べている言葉を借りれば、「いつの時代の学生にとつても、その学生時代とは、常に重要な節目のとき、変革のときである。」ということだ。

○大学で学ぶ意義とは、自分が社会の中でいかなる意味を持つのか、大所高所から俯瞰してみることで初めて見えてくるもの。

例えば、イギリスの経済学者サミュエルソンは、よく「フリーなランチはない」といわれる経済用語は必ずしも「真」ではなく、我々の社会は無形の便益に与っている(我々は、ロビンソン・クルーソーではない)、と喝破した。そのように広い視野を育むには、社会全体に対するヴィジョンを養うこと、大いに書物に触れること(濫読も必要であり、知的な雑食たれ)、文化的教養を養うことが肝要だ。

○ドイツの哲学者ショーペンハウエルは、その著「読書と書物」(岩波文庫)の中で「書物ばかり読んでいるとカタワになる」と、また同「自ら考え

ること」の中では「読書を継続すれば、自分の力で思索するに有害となる」と論じているが、要は、本は読んでも本に読まれるな、ということ言っているのだ。

良書と悪書とを見分けられる能力のみならず、論点の相対する書物を読み、自ら判断できる能力の養成が望まれよう。良書とは、読後の自分と書物を読む前の自分とを比較してみたとき、何らかの向上心がもてるものを言う。

(貴重なご提言を、
ありがとうございました。)

青空のもと、 スポーツフェスティバル!!

SPORTS FESTIVAL IN UTM-F.H.

週5日制にともない今年度から自由参加となり、その名も「スポーツフェスティバル」と改められた校内球技大会が、七月十三日(土)に、校内と第3

グラウンドを会場にして実施されました。午前九時から総合体育館メインアリーナで行われた開会式で、まず須賀英之・副校長先生から開会宣言のご挨拶をいただいたあと、さっそく試合開始!

男子バスケットボール二十五チームと女子バスケットボール二十三チームのうち、すでに十一日(木)の予選リーグを勝ち進んでいるグループは、そのままメインアリーナで決勝戦目指してトス・アップ! 同サブ・アリーナでの卓球シングルス戦は、男子十九チームと女子三十チームが熱戦を繰り広げました。

また、男子バレーボール十三チームおよび同女子二十四チームは、グラウンドのバレーコートで時間を延長しての決勝戦……。男女ソフトテニスのダブルス個人戦は、第3グラウンドの人工芝専用オムニコートで、平素の鍛錬の成果を競い合いました。

なお今回は、全種目とも、各学年から「精鋭?教職員セレクトチーム」もシードで出場し、各トーナメントリーグを勝ち進んだ生徒強豪チームと互角

にプレーしました。
さて、その戦績は……。

★各種目ごとの成績優秀チームは、以下のとおりです。

○男子バスケットボール

優勝 3の13・14
準優勝 3の12
第3位 3の23・24
1の9

○女子バスケットボール

優勝 3の13・14
準優勝 1の4・6
第3位 3の3 3の7

○男子バレーボール

優勝 3の23・24
準優勝 3の19
第3位 3の21 3の5

○女子バレーボール

優勝 3の16
準優勝 3の15
第3位 2の23

○男子卓球

優勝 1の22 大森敏久
準優勝 1の24 石川 達
第3位 2の11 菊池孝伸

○女子卓球

優勝 3の4 小川原聖美
準優勝 1の24 鷹嘴麻貴
第3位 3の21 手塚彩由美

○男子ソフトテニス

優勝 3の5 西部・小谷ベア
準優勝 1の8 大森・小野ベア
第3位 3の24 稲見・山上ベア

○女子ソフトテニス

優勝 1の17 小野・守谷ベア
準優勝 1の19 神山・佐川ベア
第3位 3の23・24 鈴木・関口ベア

(入賞されたみなさん、
おめでとうございます。)



★青空のもと、 テニスボールを追って!★

宇短附杯ソフトテニス大会開催!

今年度で第五回目を迎えた「宇短附杯ソフトテニス大会」が、真夏の青空



が晴れ渡った七月十四日(日)、グリーン芝の目に鮮やかな本校第三グラウンド・専用オムニコートで行われました。今回は、宇都宮市内の中学校に小山の間々田を加えた計十二校、九十六名の女子ソフトテニス部員のみならず、熱戦を繰り広げました。

当日は、成田純顧問の司会のもと、まず開会式で須賀淳校長先生と間々田中の木所先生からご挨拶をいただき、続いて陽南中の大橋先生から注意事項のご連絡。次に、横川中の三年・本多さんから昨年度の優勝カップの返還がありました。

試合は、まず最初に、三校ずつ四ブロックの予選リーグ(団体戦)があり、次に、各ブロック一位のチームが決勝トーナメント戦に挑みました。四時三十分ごろまでかかった熱戦の結果は、一位が昨年に引き続き横川中、二位・陽南中、三位・陽東中と城山中でした。その後、中山成子顧問の司会で、閉会式。木所先生が各入賞チームにカップと楯を贈呈、今大会の全般的な講評をお話いただき終了しました。出場選

手のみなさんも、大きな成果を得られたようで、また来年の再開を約束してコートを後にしました。

★卒業生のみなさんから熱いメッセージ★

平成十四年度・大学合格者体験発表会を開催



▲明治大学文学部へ進学された島田昭広君(豊郷中・出身)のスピーチ。

今年度で、第十回目を迎えた「生情調・合格者体験発表会」に続いて第三回目の「普通科合格者体験発表会」が、七月三十日(水)に須賀栄子記念講堂大ホールで行われました。それぞれ七名ずつの現役大学生による実体験に基づくアドバイスを、本校

受験生は、熱心にメモを取りながら聞き入っていました。中でも、本校の附属中学校から六カ年の一貫教育課程を経て現役で東北大学経済学部・経済学科に進学された白石圭太郎君(普通科・特進コース出身)は、オリジナル・レジュメを作成・配布しての大熱弁! 入試や受験勉強全般に関する具体的な心構えには、聴講していた先生方からも思わず納得のうなり声が……。高校三年生諸君のさらなるご検討を期待します。

医歯薬特進コース二年生(第二期生)が卒業生による体験講話を開催

夏休み中の七月三十一日(水)午前九時から、医歯薬系進学卒業生による第一回目の体験講話が開催されました。これは、医歯薬系進学卒業生に、現場の仕事を実際や大学での研究内容、高校時代の受験勉強などの体験をお話いただくことで、生徒により大きな興味と関心をもたせ、今後の進路決定の

参考にも資することを目的として実施されたものです。

当日は、現在自治医科大学の消化器系研修医として活躍中の田中宏幸先生(宇都宮市立雀の宮中学校出身、平成六年本校卒、独協医科大学医学部卒)と今市市の栄仁会 川上病院に薬剤師としてご勤務の長田真宏先生(宇都宮大附属中学校出身、平成元年本校卒、東京薬科大学薬学部卒)のお二人に講師としておいでいただきました。

なお、長田先生は今市市法蔵寺の副住職でもあり、二月十日(日)に本校の須賀栄子記念講堂で行われた附属中立志式の記念演奏会では、「のりがおか雅楽会」の楽長として龍笛の演奏をご披露くださいました。

以下、「受験勉強とは」と題して行われました、在校生代表生徒とのパネルディスカッション、およびフリートークの模様をお届けいたします。

一、高校時代の受験勉強について

田中：普通科進学コースに在籍した。在学中はあまり勉強していない。勉強がどうしてもやれない、やる

気なしの日々が多かった。ただし、

三年次、物理の中山先生の授業を聴いてから物理に興味を持ち、「橋本の法則」という参考書を購入した。すると、次の実力テストでは約三百人中五番になった。これが、やる気が出るきっかけになった。

浪人生活は二年に及んだ。デキルやつは、どらにすることがわかった。どんなに自分が頑張っても勝てない人がいた。そうだったことが、自分を奮い立たせた。

何故勉強をやらなければならぬのか。何故医学部に進学するのか。大まかでいいから考えてみる。次に、何をしなければならぬかを考え、絞り込んでいくと良いと思う。要は焦点を一つに絞ることだ。

長田：興味を持つこと、情報収集を自分ですることが大切。興味を持つことが最大の武器になるから。自分が引く掛かるものがある。その科目が好きになり、成績も上がる。例えば化学の授業で萩原先生がいろいろ話してくれたことで興味を持ち、化学は誰にも負け

ないくらい自信があった。

好き嫌いがはっきりしていた。国語が苦手であったが、漢文を電車通学の時間などを利用して、暗記した。漢文は暗記すれば点数がとれる科目だ。

高校生からの質問コーナー

①勉強の息抜きに何をしましたか?

長田：九時間寝た。その分、勉強は電車に乗ってる時間や短い時間を使ったり、授業に集中した。ゲームは気分転換には良いと思います。ただし、メリハリというか、ゲームを止めるブレーキが必要だと思う。田中：よく食べた。ゲームはゲームセンターにもよく通ったし、いっそ一週間ぐらい飽きるまでやったらどうか。浪人中は、息抜きなしだった。

②やる気が起きないときどうしましたか?

長田：一度離れてみる、ただし教科書は離さない。田中：一度離れてみる、ただし教科書は離さない。

③参考書は何を使いましたか?

長田：チャート式の化学をポロポロになるまでやった。桐原書店の英語の問題集は友人に勧められて二年のときから始めた。できなかった問題には×を付け、×がなくなるまで何度も繰り返し。「浮気」はしない方がよいと思う。

田中：旺文社の英文法標準問題精講の易しい方のやつをやった。数学はスタンダードを全部やった。教科書や教科書ガイドを丸写しするのも効果があった。一週間でノートが二冊になった。その結果、まぐれかもしれないが偏差値が七十になった。

④一年のときは何をしましたか?

長田：将棋をやりました。田中：塾に通っていたが、親にばれないようにさぼっていた。

⑤塾には行きましたか?

長田：化学の有機化学は、学校では充分時間が掛けられないので、ワンポイントの短期講習を書店のパンフレットなどで探した。S(駿豆) K(河合) Y(代ゼミ)ではなく、自

分の要求にぴったりの一橋学院の短期講習を選んだ。ここでは、おもしろい話が聞けて良かった。書店のパンフレットなどで情報収集することも大切だと思う。

二、医学部、薬学部を選んだ理由と大学での勉強など

田中：父が医者だったので、憧れもあった。人との駆け引きがおもしろいので、人と接する仕事をしたかった。別に関心は医学部に行かなくてもいいよ。」と言われると、反発した。

本校の進学コースから推薦入試の可能性もあったが、国立進学を選んだ。妥協しない、切羽詰まるような心の持ち様が大切だと思う。

大学では、あまり講義に熱心で出席していない。遊んでいるようでも、試験に合格するだけの勉強はやっていた。高校時代とは違って全部やるとか、全部写すとかできない。勉強方法はその時々で変わってくる。

高校生からの質問コーナー

①新しい薬品が開発されると、その薬品について勉強が必要になると聞きましたか？

長田：一日に一つは新薬が開発されている。薬品会社からのデータや資料を基に勉強することはもちろん必要だが、同時に病気についての勉強も怠れない。

田中：お金を使う暇も、寝る暇がないくらいなので、勉強する暇は、もちろん無い。

四、最後に一言

長田：二つのうちどちらか一つを選ばなければならぬときがある。一つを選ぶ決断力を持つてほしい。

田中：一ヶ月、一つのこと集中してみてほしい。一冊だけでいいから、

ていくものだ。

バスケットボール部に所属した。長田：姉が薬学部の学生で、薬局でアルバイトをしていたとき、MGOや正露丸についての話をしてくれてたので、興味を持った。また、当時祖父が癌で亡くなり、薬事治療の研究開発に関心をもった。このようことから、薬学部進学を考えたようになった。

薬学部は現在四年制であるが、内容が多すぎるため将来は六年制に移行することが検討されているくらいであり、講義や実習も非常に多い。

それでも、スポーツ(テニス)に打ち込んだ。バランスのとれた大学生生活だったと思う。

高校生からの質問コーナー

①最終的に、進路を決定したのはいつですか？

長田：高校二年

田中：小学校一年

高校時代は、勉強が思うようにいかなかったりしたが、医学部進

集中してやり通してほしい。

《記録：古郡健二》

★医歯薬特進コース三年生(第二期生) 獨協医科大学オーブンキャンパスへ★

平成十三年四月に新設された、普通科医歯薬特進コース第一期生の二年二組の生徒三十二名が、七月三十一日(水)に実施された独協医科大学のオーブンキャンパスに参加しました。

午前九時三十分からのオリエンテーションの後、十時からは各コースに分かれての医学体験および実際のオペや臨床実験の見学。続いて、十二時十分から学生食堂にて学長先生のご挨拶、そして各コース担当教官との懇談会をかねた昼食会がありました。

次に、午後一時から平成十五年の入試要項の説明を受け、一時二十分からはインターネットによる医療体験と個別進学相談会に参加しました。

最後に、学内施設の見学をさせていただき、終講となりましたが、将来、医

学は諦めなかった。

②プールに死体が浮いているというのは本当ですか？

田中：プールと言っても、普通のプールではなく、地下などにあるホルマリンのプールです。

③どんな実習がありましたか？

長田：化学の実験みたいなものから動物実験までいろいろあった。

田中：解剖とは言っても、脱血してあるので、想像しているような血飛沫が飛び散るような光景はない。

三、現場での体験談

田中：朝六時起床。土曜、日曜なし。ほとんど毎日フルタイム勤務。休む暇さえない。研修医の期間は二年間。十年で一人前と言われる世界。医者は、よくお金が貯まると言われるが、それはお金を使う暇さえないからではないだろうか。

長田：担当医師からの指示で薬品を調合するだけではなく、薬の正しい飲み方を指導する服薬指導、担当医師に対する薬品の疑義照会などの仕事がある。

師や薬剤師を目指す生徒の皆さんにとって、この上もなく有意義で刺激的な一日になったようです。

★インターハイに出場!! 男子ソフトテニス部・弓道部★

「競え友よ」熱き力を、茨城で」を大会スローガンに、茨城県で実施された「二〇〇二年茨城総体」に平成十四年度全国高等学校総合体育大会に、本校からは、男子ソフトテニス部(団体・個人)と弓道部(個人)が、栃木県代表として参加しました。

これに先立ちまして、夏休み中の八月一日(水) 出校日の朝の職員打ち合わせ時には、出場選手を代表して、弓道部の野村昌大部長と男子ソフトテニス部の小倉弘行部長から、全力を尽くして戦い抜きますとの力強い宣誓のあいさつがありました。

大会結果の詳しい内容は、本誌「委員会・クラブ報告」コーナー、あるいは本校公式HPにありますので、ぜひ

ご覧ください。なお、男子テニス部の出場選手は、以下の通りです。
斎藤貴文・小倉弘行組、山下寛晃・手塚智也組、吉永浩明・大塚雅士組、大野拓也・阿久津優組の計八名の選抜チームでした。



▶水戸市の茨城県武道館で試合にのぞむ弓道部の野村昌大選手(3の19)。

★宇短夫人間福祉科で 第三回オーブンキャンパス実施★

↳百五十名を越す参加者で大盛況!↳

「二十世紀の福祉社会」を君の手で!
二〇〇一年(平成十三年)四月に新設されて二年目を迎えた宇短夫人間福祉学科の第二回目のオーブンキャンパスが、八月二十日(金)に行われました。台風一過の真夏日となった会場には、これまでの社会福祉専攻と介護福祉専攻に加え、来年度から幼児福祉専攻が新設され、卒業と同時に保育士と幼稚園教諭二種免許の資格が取得可能となることなどから、県内外より百五十名を超える多くの参加者が集まりました。
まず、全体会が二号館・須賀友正記念ホールで、九時十五分からの河田隆先生によるレクリエーション実演で開始。その後、須賀淳学長先生から挨拶をいただき、三友雅夫学科長先生からの人間福祉学科のご紹介、そして河田先生と学生生活委員から「学生生活について」のご紹介とビデオ上映によ

るPRと続きました。十時十五分からは、事務局長の橋本義雄先生から平成十五年度入試の説明があり、次に、施設の見学会へと移りました。

十時三十分から十一時二十分までは三号館の四階図書館→三階学生ホール等→二階教室・PC実習室→一階レクチャーホールへと、各実習室や演習室の見学および施設の説明をいただきましたが、特に、入浴・介護・家政実習室での実習デモンストラーションやレクリエーション実演、演習室での学生生活・資格・就職・幼児福祉専攻パネルの展示と説明などは大人気でした。続いて十一時三十分からは、希望者が「二十世紀の幼児福祉とは」と題する加藤定夫先生の模擬授業を聴講。
十二時からは、AO面接会も実施され、各面接会場とも順番待ちができるほど、高校生たちが熱心に先生方との進路相談に臨んでいました。同時進行で、三階学生ホールでランチをご馳走になり、大盛況のうちに今回のオーブンキャンパスを終了しました。

華やかに、感動を...

↳「フェスタ2002」を開催↳

秋も深まった十月二十四日(木)、須賀栄子記念講堂大ホールで、本校では初の試みとなる「フェスタ2002」が開催されました。これは、今年五月三十一日(金)に開催された高校生徒総会で、今年度の活動目標として掲げられたテーマの一つによるものです。

特に今回は、①生活教養科・音楽科生徒の日ごろの学習成果を多くの生徒に紹介することによって、生徒同士がそれぞれの科の理解を深めること、②発表の機会をひとつの励みとして、生活教養科・音楽科の生徒が意欲的に学習に取り組むこと、等を大きな目標として開催されました。

当日は、一限から三限までを第一部、四限から六限までを第二部とする二部構成で、各学年の鑑賞クラスが、まず生活教養科の華やかなファッション・ショーに酔いしれました。

今回のショーのメイン・テーマは、「時

代」。

ドット、ストライプ、花柄、チェックの各パターンを主題とした作品から始まり、最もホットなアジアンテイスト、オーセンティックな無地、かわいらしさを最大限アピールしたフリルと続きました。そして、「ゴージャスな「西洋服装史」、伝統を追求する織物でグランドフィナーレ!!」

自作自演の感動を味わえた舞台のモデルの皆さん、ご指導くださった関係先生、スタッフの生徒のみなさん、最高のショーをありがとうございました。

後半は、恒例の音楽科三年生を中心にしたオペレッタ。

今回の演目は、一九五九年にニューヨークで初演されたミュージカル、名作「サウンド・オブ・ミュージック」です。舞台は、第二次世界大戦中、ナチス占領下のオーストリア。ザルツブルグ郊外のトラップ大佐一家で繰り広げられる愛と感動のドラマを、歌と笑いでコミカルに、ときに涙で大熱演!!何ヶ月にもわたる猛練習の成果が存分

に発揮された、見ごたえのあるステージになりました。
またの機会に、ぜひ再演を期待したいものです。



▶グランドフィナーレで、トクタイム・エブリ・マウンテンを熱唱。

情報商業科が

校内研究発表会を開催

十二月七日(土)午前九時から約一時間、須賀栄子記念講堂大ホールで、情報商業科の校内研究発表会が開催されました。

発表内容は、①個人輸入について

②東京デイズニード、知らない人はいないほどの人気のわけ、③携帯電話、あなたはマナーを守っていますか、④家電量販YKK戦争より学ぶ企業戦略(3年担当)という四つのテーマに基づいたもので、それぞれ二年生を中心としたグループの熱のこもった研究発表がなされました。

特に、現在最もホットな経済界の話題の一つ・北関東ブロックを核に全国規模でのシェア獲得にしのぎを削る「YAMADAデンキ」「コジマ」「K'sデンキ」の企業戦略に関するリポートは、われわれ一般の消費者に対する提言も多く盛り込まれた。極めて示唆に富むものでした。

★タイから帰国、

吉村翔太郎君★

国際ロータリー第2550地区

交換留学生として

国際ロータリー第2550地区の主催で、約一年間タイに留学していた普通科二年四組の吉村翔太郎君(特進コース・文系)が、日タイ間の国際親善を果たし、無事帰国しました。地球温暖化現象に対する問題意識を強く持つ一方で、ラグビーやバスケットボールなど、スポーツ全般も得意な吉村君……。

「大学で専門的な研究を進める前に、外国からの視点で日本と自分とを見つめなおす時間を持ち、自分の世界を広げておきたい。また、現地の風習を学び、日本との文化の違いを見出すとともに、日本の文化・歴史を紹介できた……。

一方、地球が直面している温暖化を防ぐためには、まず第一に限りある資源を大切に使うべきだ。紙や空き缶をリサイクルするのはもちろんのこと、

★NZマヌカウ市へ、派遣中高生★

昨年の夏、七月十日(水)から八月二十八日(水)までの五十日間の日程で、普通科二年五組(特進コース・理系)の田崎正倫君と同九組(進学コース・文系)の小笠原香純さんが、宇都宮市の国際交流特使としてニュージーランドマヌカウ市へ派遣されました。

これは、宇都宮市国際交流協会の主催で実施された平成十四年度マヌカウ市高校生派遣事業によるもので、市内

十二校から三十二名の応募があり、厳しい面接試験の結果、派遣生として選出されたものです。

また、同じく、中学生として平成十四年度マヌカウ市海外体験学習研修生に選出されたのが、中学二年二組の田村晴さんです。こちらは、市内二十二の中学校から計七十二名の応募者があり、厳正な抽選の結果選ばれた五十名の研修団の一人で、七月二十五日(水)から八月八日(水)まで二週間にわたり派遣されました。

ともに、計五回にわたる十分な事前研修を経ての出発でしたが、両国の親密な交流へ向け、大きく飛躍して帰国されました。

★セヴリーヌ・クロティルドさん フランスから二度目の来校★

一昨年、フランス・オルレアン市からの派遣青少年として、本校で約十日間の体験学習をされたセヴリーヌ・クロティルドさん(十五歳)が、七月十七日(水)午後、再度来校されました。今

附属中学生★

那須大留学生との交流会を開く

総合的な学習の一環として

十二月七日(土)午前八時三十分から、「総合的な学習」の一環として、附属中学校の生徒一年生から三年生による、那須大学の留生をお招きしての交流会が開催されました。これは、留学生の母国料理作りを通して異国の文化に親しんでもらおうと、四年前から実施されている恒例の行事です。

当日は、午前九時四十分から須賀栄

子記念講堂小ホールで開講式。

まず、須賀 淳校長先生から特別講座開講に際してのご挨拶をいただいたあと、中学校生徒会長・関谷聡士君から歓迎のご挨拶。続いて、那須大学の吉岐先生のサポートで、留学生のみなさんによる実際の大学生活と母国に関する自己紹介がありました。

中国(四川省や内モンゴル自治区)や韓国、インドからの那須大留学生は、総勢二十三名。十時からは、調理科の三上先生と中華の吹野先生、本校調理科一・二年生三十三名のご指導のもと、いよいよ全員で第一、三調理室を借り切った「料理講座」の始まりです！

メニューは……インドカレー、韓国のチヂミ、四川ギョウザ、モンゴルの肉まん「ボウス」と焼き菓子です。にぎやかな中にも異文化情緒たっぷりの「料理講座」を受講しながら、中学生のみなさんは、「肌身で感じる国際交流」を堪能できているようでした。

お国自慢のごちそうの数々ができあがると、十一時三十分から西棟三階教

室に場所を移しての楽しい会食です。中学校の各担任先生もまじえての各サロンは、いずれも大賑わいで、中学生には一足早いクリスマス・パーティーだったようです。

その後、各教室で留学生のみなさんにお礼の言葉を述べ、名残を惜しみながらの散会となりました。

(ぜひ来年も、この企画を続けていただきたいものです。)



三年二十四組 鈴木真祐

投書

爽やかな季節になってきました。突然の便りに、さぞ、驚いたことでしょう。

実は、この度(九月十一日、入試説明会の折のことですが)、縁あってか、お二人の作品をプレゼントしていただきました。

小野寺さんには、ステンドグラスの葡萄様タオル掛けを、長谷川さんには、こんがりほくほくのパウンドケーキを、どちらもよくできていたように思います。

ケーキは保存できないので、職員室の先生で分けていただきました。好評でした。

タオル掛けは、校長室で使うのがいという先生もいましたが、私の発案で、保健室で使わせていただくことにしました。できるだけ、後輩たちの目の届くところで利用させてはしかったのです。

皆さんは、河内中学校の卒業生ではありませんが、現在の河内中学校の生徒にとって、先輩であることに違いありません。先輩方の学校生活から生まれてきた作品が、後輩たちに何らかの刺激を与えてくれます。それはそれで素晴らしいことと思います。

いずれにしても、皆さんが、忙しい学校生活の合間を縫って、おそろくいへん苦勞しながら、しかし、一生懸命仕上げてくれた作品に、なんとなく心を動かされ、お便りした次第です。中学校でも、やがて秋の深まりとともに、三年生は受験のシーズンを迎えることになりました。

皆さんも、自分の進路に向かって、最後の決断を迫られる時期を迎えていることでしょう。長い人生です、一時の気の迷いにたぶらかされることなく、じっくり考えて、自分の道を決めてください。

とんだ説教臭くなってしまいました。ただ、お礼が言いたかっただけです。ごめんなさい。そして、本当に、ありがとうございました。

九月十六日

河内中学校長 齋藤雄介

三年十六組 長谷川 仁美様

小野寺 由佳様

【編集者・注】

これは、昨年の九月十一日水に記念講堂大ホールで、県内の中学校長先生をお迎えして行われた学校説明会の折に差し上げたおみやげ(生活教養科の生徒のみなさんの手作り)に対するお礼のお手紙です。

ふと、メールしてみました

(一通のメールから)

日時: 2002年7月15日 18:10
宇都宮短期大学附属高校の先生方へ

YAHOOで検索をかけたら母校のHPに出会ったので、ふとメールしてみました。ご無沙汰しております。(じ、言っても私のことを知らない方も大勢いらっ



昨年度から続く中長期的な経済不況のせい、社会的には暗いニュースばかりが多かったように感じられる一年でした。

一方で、普通科に応用文理コースが新設され多くの第一期生が入学してきた本学園は、ますます活気に満ち溢れ、生徒の皆さんも、明るく楽しい学園生活を送ることができたように思えます。その中でも特に、昨年三月八日に栃木県総合文化センターメインホールで行われた特別定期演奏会と、十一月九日に栃木県総合運動公園の補助競技場で中高合同で開催された秋季大運動会は、全校生徒が参加してのビッグイベントだっただけに、とても思い出深いものとなりました。生徒会主催で新たに実施された七月のスポーツフェスティバルや十月の「フェスタ2012」も、お互いの友情を深め合え確かめ合える最高のステージになったと思います。

また、四月から「学校完全週五日制」が実施されたことに伴い、毎週土曜日の私たちの過ごし方も、大きく変化した一年間でした。さまざまな学校行事、系列校である那須大学や宇都宮短期大学のオープンキャンパス・高大連携講座など、私たち一人一人が自覚をもって意欲的に取り組まなければならぬ機会が、とても増えたからです。

(詳細は、本誌の「特集」欄および「学園告知板」などを、

ご覧ください)

そして、今号から新設されたのが、「那須大学・宇短大(人間福祉学科)コーナー」です。既設の「附属中コーナー」ともどもぜひ一読ください。

この四月からは、普通科特進コースがリニューアルされるほか、那須大学と宇短大にも新たな息吹が付け加わります。私たち三年生が本学園を卒業してからも、期待の心でこれからの母校の発展を見守ってゆきたいと思えます。

最後になりましたが、一年間にわたり懇切なご指導をいただきました編集委員会顧問の柳・石川・都野の各先生に、心からお礼申し上げます。ありがとうございました。

(編集委員長・木村晋介)

校史と校章

平成14年は、ミレニアム(新1000年紀)21世紀の2年目にあたります。本学園は、昨年11月3日で創立102周年の記念日を迎えましたが、平成11年4月に全国初の都市経済学部をもつ那須大学も開学して4年目、また昨年4月には、普通科に応用文理コースが新設されました。さらに、この平成15年4月には、普通科特進コースがリニューアル、那須大学・宇短大ともに新たな内容がつけ加わります。

思えば、本学園は明治33年(1900年)に須賀栄子先生によって創立されました。栄子先生は、女子に最も喫緊な技芸を教授され、その時代と境遇に順応すべき実践的婦人の養成を本学教育の趣旨となし、共和裁縫教習所から明治34年共和裁縫女学校、大正13年宇都宮須賀女学校、昭和7年宇都宮女子高等職業学校と校名を改め、学校を発展させてゆかれました。その後を第2代校長の須賀友正先生が受け継がれ、昭和21年須賀高等女学校、同23年学制改革により宇都宮須賀高等学校と校名変更をし、さらに同42年宇都宮短期大学(音楽科)を新設し、高校も宇都宮短期大学附属高等学校と改名されました。

その友正先生の後を引き継がれたのが、第3代目現校長の須賀淳先生です。先生は、昭和58年宇都宮短期大学附属中学校(中・高6か年一貫教育)を併設され、那須大学開学、短大の学科増設と、ますます学園を発展させ現在に至っています。

本校の生活目標である「一人は一校を代表する」という言葉の意味は、本校生徒一人一人が、それぞれに自らの価値を知り、その価値を自覚して生活することこそ人間の大きな喜びにつながり、幸福への第一歩にもなるということです。ここには、創立者須賀栄子先生が掲げられた「全人教育」の精神が、100余年かわらずに脈々と生きづいています。

また、現在に至るまで、本校にはいくつかの校章がありました。現在の校章は、カタカナの「ス」を3個組み合わせる図案化した須賀家の合印で、その中央に「高」の文字が挿入されています。(合印とは、いわば目印のようなもので、昔戦場で敵味方が入り乱れて戦うとき、その腕につけさせ、敵か味方かが見分けられるようにしたものです。)これは、須賀家の家系譜から第2代目校長須賀友正先生が校章と定めたもので、文字は金色、生地は純白色ですっきりとしていて、いかにも清純な感じのする校章です。現校旗と同じ、昭和34年11月3日に、創立60周年記念事業の一環として制定されました。

「ひめまつ」第五十七号(非売品)

平成十五年三月一日印刷発行

宇都宮市睦町一番三十五号

宇都宮短期大学附属高等学校

編集人 顧問 柳 清和

発行人 生徒会長 有坂 真奈美

印刷所 宇都宮市鶴田町一三五九の一

ヤマゼンコミュニケーションズ株式会社

印刷人 山本 征一郎

発行所 宇都宮短期大学附属高等学校生徒会

〒320-8585 TEL 028(232)4161(三番)

FAX 028(232)3540

ホームページ <http://www.tant.jp>